

# 大学での学修と図書館



東京都市大学図書館

# 大学での学修について

# 大学での学修①

## 高校までの勉強

- 時間割
- 授業
- 宿題
- 試験

## 大学での学修・研究

- 履修申告・登録
- 講義
- 課題
- レポート・試験

→ 予め決められた内容に基づいて学ぶ

→ 学ぶ内容を自分で決める

高校までの勉強とは違い、大学では自分で履修する授業を決めるなど「主体性」が必要となります。  
授業でも課題が多く出され、レポートを書く機会が増えます。

# 大学での学修②

- 中心となるのはレポートや論文の作成
- プロセスの基本：

①テーマ決定→②情報収集→③考察→④執筆

→ **正確な情報を効率的に収集するには？**

一般的にレポートを作成するプロセスは、まず、テーマを決めて、情報を収集し、意見をまとめ、執筆する、という流れになります。  
レポートの作成には、自分のテーマに合う情報をいかに正確にかつ、たくさん集めるか、が大きなポイントとなります。

# 情報の集め方について

# 情報とは①

- 同じ情報でも**メディアによって特性が異なる。**
  - ✓ テレビ・ラジオ・新聞 = 速報性が高い
  - ✓ 雑誌・図書 = 正確な情報やユニークな視点からの編集
  - ✓ インターネット = 速報性や情報量に強みがあるが、信頼性に欠ける情報も多い

同じ情報でも発信するメディアごとに特徴が異なります。テレビや新聞は情報の速報性があり、雑誌は、背景や展望まで詳しく知ることができます。図書は、さらに詳しく書かれていて、信頼性が高いとされています。

身近なインターネットの情報は速報性もあり、新しい情報が随時更新されて手軽にたくさんの情報を手にいれることができますが、信頼性に欠ける情報が多いということも特徴といえます。



インターネットで検索するときに、ウィキペディアを利用する人も多いと思います。  
しかしウィキペディアは個人が編集できることで莫大な知識が集まっていますが、100%信頼のおける情報源ではありません。

右の記事はアメリカのある名門大学でテストを実施したところ、間違えた人全員の回答が、全く同じでした。  
不思議に思った先生が調べてみると、間違えた学生は皆、ウィキペディアの内容を引用していたことが、わかったということです。  
このことはウィキペディアの情報源としての正確性だけでなく、利用する側の問題についても指摘しています。



## 小保方氏 早大博士号取り消し

「残念ながら期間内に訂正作業が終了しなかった。博士論文がないまま学位は維持できない」。早大の鎌田直樹校長は、記者会見でそう語った。

小保方氏の博士論文は、新たな万能細胞の可能性を示す内容で、STAP細胞の発想の原点ともいえる。しかし、会員の約20%が米国のホームページからの丸写しで、画像の不正流用も発覚した。

早大は昨年10月、小保方氏の博士号取り消しをいったん決めたが、大学側の指導や審査にも不備があったとして、1年間の猶予期間を設けた。小保方氏がこの間に博士論文を適切に改訂すれば、学位は維持されるとしていた。

早大によると、小保方氏から最初に連絡があったのは今年5月。通常は学生が大学にきて指導を受けるが、小保方氏の体調を考慮し、教員が小保方氏を3回訪ねたという。メールのやり取りは20通以上。博士論文は8月までに4回改訂され、不正と指摘され

# 科学的検証 踏み込まず

### STAP論文不正問題

小保方氏が筆頭著者のSTAP細胞論文が、英科学誌「ネイチャー」に掲載されたのは2014年1月。トナなどで疑義が相次ぎ、理研は4月、論文中の画像があると発表。7月にはネイチャーが論文を撤回した。

理研の外部調査委員会は12月、データの一部を捏造と認定し、STAP細胞はほぼES細胞（胚性）とする報告書を公表。12月には、理研の遺伝子解析の

読売新聞  
東京朝刊  
2015年11月8日

### 「中途半端」批判

た部分などを修正していった。実験手法や結果の科学的根

認めず、博士号取り消し。小保方氏は2月、結果で不正を公表。4日、理

レポートを作成する上で、注意しなければならないのが盗用問題です。コピー&ペースト、いわゆるコピペ問題とも言われています。

上の記事にあるSTAP細胞論文の騒動では、大学時代の論文の一部が他人が書いた文章である「盗用」と認定され、著者はそれまでの経歴や信用も失う結果となりました。他人の文章を自分で書いたように使うことは「盗作」にあたり、決して行ってはいけない行為です。他人の研究成果を勝手使ってはならないという倫理的な観点から著作権法でも禁じられています。



# 情報とは②

- 信頼性の高い情報を得るには
    - ✓ 専門家が時間をかけて編集した**図書や雑誌**
    - ✓ 多くの人・機関によって査読された**論文**
    - ✓ 情報の提供元や編集者が明確で、責任の所在が判明している情報源
    - ✓ **ひとつだけではなく複数の情報源を確認する**
- **図書館では図書や雑誌のほか、企業や学会が提供する有料のデータベース・電子ジャーナルを契約しており、学生は無料で利用可能**

信頼性の高い情報を収集するためには、情報の提供元や責任の所在がはっきりした図書や雑誌などから情報収集することが大切です。

また、ひとつだけではなく複数の情報源を確認することも重要です。

その際にデータベースや電子ジャーナルを使いこなせばたくさんの情報を得ることができます。

# 図書館データベースの利用案内

図書館ホームページには、それぞれの目的に応じたデータベースがあります。皆さんの調べたい事柄に合わせて活用してみてください。

①「大学での学修と図書館」	⑤「 <u>新聞記事をさがす</u> 」
②「 <u>図書館の本をさがす</u> 」	⑥「 <u>辞典・事典で言葉の意味をしらべる</u> 」
③「 <u>電子ブックをよむ</u> 」	⑦「 <u>論文検索（初級）</u> 」
④「 <u>雑誌記事をさがす</u> 」	⑧「論文検索（上級）」